**第２回おおさかスマートエネルギー協議会 全体会議 議事概要**

**（１）日　時：**平成31年３月25日（月）１３時３０分から１５時３０分まで

**（２）場　所：**大阪府咲洲庁舎44階　大会議室

**（３）出席者：**

【府民団体】

なにわの消費者団体連絡会

　　【事業者団体】

　　　（公社）関西経済連合会

　　【エネルギー供給事業者】

　　　 関西電力（株）、大阪ガス（株）、オリックス（株）

　　【国・自治体等】

　　　 近畿経済産業局、近畿地方環境事務所、堺市、門真市、大阪府地球温暖化防止活動推進センター、大阪府

　　【ファシリテーター】

　　 （有）ひのでやエコライフ研究所　代表取締役　鈴木 靖文

**（４）概要および意見等**

**①今年度の協議会開催結果について（部門別会議の報告）**

　**＜平成30年度の協議会開催結果一覧＞＜部門会議の実施状況＞**

○概要

・今年度の第１回目全体会議及び各部門別会議の協議結果について説明した。

　**＜吹田市における転入・転出者へのナッジを活用した啓発による省エネ行動変容の検証について＞**

　　〇概要

　　　　・吹田市及び大阪府地球温暖化防止活動推進センターと連携して実施した、吹田市における転

入・転出者へのナッジを活用した啓発による省エネ行動変容の検証の取組みについて、概要及

び速報結果を説明した。

　　〇主な意見等

　　　　・本取組みで配付したリーフレットに電気の切り替えの項目があるが、お得かどうか確認するというこ

とでは意味があると思うが、省エネの行動促進という意味ではなぜ項目にあるのか。

　　　　　　⇒消費者にとって省エネというよりもコストメリットの方が一番関心を持っていると思うが、エネル

ギーへの関心が高くなる引っ越しの時期に合わせて、実態を把握するため項目に入れた。

　　　　・再エネの電気メニューを選ぶことは、環境に優しい行動のように思われるが、出力が変動する再エ

ネ電源を調整するため、効率が悪い火力発電を稼働させる場合があり、再エネの電気メニューが

環境に優しいか検討する必要がある。

　　　　　　⇒再エネの環境価値を踏まえた利用方法について、来年度の協議会テーマとして検討してい

る。エネルギー事業者の意見を踏まえながら、協議会の中でどのように府民へ普及啓発をし

ていくのか考えていけたらと思う。

**②国の温暖化・エネルギー政策の動向について**

　**＜2019年度エネルギー対策特別会計における補助・委託等事業（パンフレット）＞【環境省】**

　　○概要

・2018年度補正予算及び2019年度予算で実施する、「地域の防災・減災と低炭素化を同時

実現する自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業」について概要を説明した。

　　〇主な意見等

　　　 ・本補助金は、2018年度からの新規事業なのか。また、いつまでの補助金なのか。

　　　　　　⇒新規事業である。実施期間は、３ヶ年事業と聞いており、2020年度も2019年度と同程

　　　　　　　度の予算額だと思われる。2020年度以降については未定である。

　　　 ・今回の2018年度補正予算について、大きな予算額だが、現状どの程度の申し込みや反響があ

るのか。

　 ⇒執行団体に委託しており、近畿地方環境事務所として詳細までは把握していない。担当の

意見としては、予算額が大きいため２次募集、３次募集が実施される可能性がある。

　**＜環境省ナッジ関係の動向等（参考資料３）＞**

　　○概要

　　　　・環境省ナッジ事業の概要及び日本版ナッジ・ユニット連絡会議の動向等について説明した。

　　**③来年度の協議会のテーマ及び進め方等について（意見交換）**

　**＜大阪府・大阪市で取組む エネルギー関連の施策事業集 ～2019年度 アクションプログラム～（案）＞**

　　○概要

　　　　・来年度の大阪府・大阪市で取組むエネルギー関連の施策事業集（2019年度アクションプログ

ラム）の案について、新規事業及び主な事業について説明した。

　　　〇主な意見等

　　　　　・おおさかエネルギー地産地消推進プランに関する2020年度目標値の達成の見通しや、次期

プラン改訂のスケジュールについて教えてほしい。

　　　　　　　⇒現プランの2020年度目標の進捗としては増加している。電力需要の削減では、目標

をすでに達成している項目がある。改訂スケジュールについては、次期プランの内容及び数

値目標について検討している。

　　　　　 ・次期プランの内容については、本協議会でも検討するのか。

　　　　　　　　⇒本協議会の全体会議または部門別会議で検討するか未定だが、2,3年かけて内容を検討していきたい。

　**＜来年度の協議会テーマ（案）について＞**

　　　〇概要

　　　　　・来年度の協議会テーマ（案）について変更点を説明し、主なテーマを紹介した。

　　　〇主な意見等

　　　　　・関西エリアでRE100を取組みたいという企業が現れた時に、エネルギー事業者側が支援するという動きは考えているのか。

　　　　　　　　⇒オリックスとしては、東京の動向まで把握できていないが、自らRE100に参加できていな

い状況である。対外的に支援する政策についてまだ持ち合わせていない。

　　　　　　　　⇒関西電力としては、明確な支援制度はないが、水力発電からの電気メニューを事業者

向けにすでに実施しており、FIT切れの太陽光発電についても、RE100を希望する企

業に販売することも検討している。今後の国の検討しだいだが、原子力発電所の位置づ

けによって、CO2を排出しないという価値を消費者に提供するということも考えられる。

　　　　　　　　⇒大阪ガスとしては、家庭用だがCO2ゼロの新しい料金メニューを発表した。関連会社のエ

ネットでは、事業者向けの再エネメニューがある。しかし、RE100は2050年目標のた

め、今からコストをかけて取り組む企業は少ないと思う。

　　　　　　・関西経済連合会では、企業のRE100の動向について、そうした議論やRE100に賛同する

企業は出てきているのか。

　　　　　　　　⇒会員企業ではESG投資など金銭面において、金融機関を中心に動いている。関西の

会員企業では、３S＋Eの安定した安い電気を求めている企業が多いため、RE100に

取り組む企業は一部である。

　　　　　　・来年度以降、非化石取引市場によって大きく環境価値の動向が変わる。しかし、再エネ導

入が急速に増加すれば、その他の電源が準備できていないため、効率の悪い火力発電所を

稼働することにつながり逆効果である。そのため、再エネの導入速度や効率の良い化石燃料

を使用した電源などのバランスを考える必要がある。

　　　　　　・来年度の協議会のテーマ案に万博の記載があるが、どのようなことを考えているか。

　　　　　　　　⇒万博をショーケースとして、次期プランや新しい技術などを意見交換するためのものとして

考えていけたらと思っている。

**④今年度の電力需給結果について**

**＜関西エリアにおける電力需給状況について＞【関西電力株式会社】**

　　　　〇概要

　　　　　　・今年度の夏と冬の需給バランス及び電力逼迫時の広域融通の使用等について説明した。

以　上